

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100138		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	グループホーム・ファミリア 2		
所在地	〒026-0055 岩手県釜石市甲子町15-86-5		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の1F、2Fが有料老人ホームとなっており、職員も兼務している。また、グループホームと有料老人ホームの入居者同士建物を行き来しながら交流をしている。季節の行事やレク活動なども合同で行っている。地域のイベントなどにも参加し交流を行っている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、釜石中央ICから車で3分程の所にあり、周辺は山間の住宅地であるが市街地からも近く、市の支所や図書館、病院、スーパーなど様々な施設がある。会社は、釜石市内でタクシー事業と介護事業を行っており、ここでは、2ユニットの事業所のある3階建ての建物内でグループホームと有料老人ホームを一体的に運営している。令和元年度からは、理念に対する具体的な活動目標を職員で話し合っ設定し実践しており、特に、落ち着いて利用者の話をしっかりと聴く取り組みは特筆される。また、コロナ禍で外部との交流は縮小しているが、天気の良い日には、利用者は職員と一緒に散歩し、地域の方々や挨拶を交わすことで、自然な交流が出来る。町内の行事に施設を開放し、地域の防災訓練では自治会婦人部が施設を使って炊き出し訓練を行っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様の安らぎと暮らしを支える」を事業所理念とし、在宅に近い生活、本人の意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。	理念の共有と具現化を促進するため、事業所の理念である「お客様の安らぎと暮らしを支える」を基に、具体的な活動目標を職員と話し合い設定し実践している。申し送りの時にも職員に見えるように事務所に掲示しており、職員は目を通し職場に入っている。利用者の意向を汲み取り、自宅に近い生活が送れるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属しており、地域の行事などへ参加を行っている。また、施設内の見学やスペースを使い地域交流を行っている。	コロナ禍で外部との交流は縮小しているが、天気の良い日には、利用者と職員がマンツーマンで散歩に出掛けている。地域の方との馴染みが培われるよう、挨拶などをし交流が増えている。また、町内の行事に施設を開放しており、年1回の地域防災訓練では、自治会婦人部が施設を使って炊き出し訓練を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事、地域行事等に参加した際、周辺地域の方にも参加して頂き認知症介助の実際を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第4週金曜に運営推進会議を設定しており、町内会長、民生委員、市の担当職員に参加して頂いている。現在はコロナによる制限の為定期開催は困難となっている。	民生委員と町内会長、市担当課職員、利用者代表に加え当日勤務の職員が1人から2人参加している。会議では、利用者の状況やヒヤリハットの検討結果などを議題としている。職員体制の話題をきっかけに、委員から情報提供をいただき2人を採用することも出来ている。令和2年度は、コロナ禍により書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者への電話やメールによる相談や担当窓口へ行った際など入居者、職員の近況報告などを行っている。	日頃から情報交換を出来る関係にある。市の担当課には、事業所専用のボックスが設置されており、月に何度か出向き行政情報の収集がてら、利用者の状況報告や様々な相談を行っている。本年夏の救急対応の事案についても、家族はもとより速やかに市に報告している。市の理解・支援を得ながら、現場の課題解決を図っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では身体拘束を行わない旨を契約書に載せており、契約時に説明を行っている。また権利擁護の研修等にも参加できるよう取り組んでいる。	身体拘束の指針を作成し見やすい場所に掲示し、2か月毎に身体拘束委員会を開催している。入居時の契約書には、身体的拘束を行わない旨を明記しており、家族とは身体拘束のリスクについても話し合い、転倒の可能性がある場合には、それに代わる対応も説明している。利用者の状態は介護経過表に記録されており、認知症の中核症状が強く出る場合には、その記録を参考に行動の原因や要因を探り、対応策を考え取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のメンタルケアを定期的に行っている。虐待防止について外部研修への参加、施設内研修を行い情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の研修計画に権利擁護研修を組み込んでいる。又、外部研修に参加した際は施設内研修として他職員にも周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの際に居宅ケアマネよりサービスの説明を事前に行ってもらい、施設見学や申し込みの際も管理者が施設概要やサービスについて説明を行っている。又、契約時にも同様の説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日常生活の中で家族、利用者の意見を聞き取りできる範囲で実施している。遠方の家族とは電話や手紙にてやり取りを行っている。	暮らしの中で、おやつ作りなどの利用者の具体的な意見・要望を反映させている。家族へは、月初めに利用料の請求書と併せて、状態や変化などを手紙で報告しており、手紙以外でも逐一様子を伝えている。家族からは面会時に、意見、要望を伺っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設の有料老人ホームと職員が兼務しているため、合同でヘルパー会議を行い職員の意見や提案を聞き、反映している。	階下の有料老人ホームと合同で、月1回ヘルパー会議を行い、職員の意見や提案を取り上げ運営に反映している。コロナ禍で午前掃除が入ると午前のレク活動が短くなることから、他の業務に影響が出ないよう業務を見直している。また、処遇改善やレクリエーション活動など、職員からの気付きや要望を取り入れながら、支援の仕方を調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の取得や職員の実績に応じた手当等の支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術に応じた外部研修への参加や研修項目を個別に策定している。又、資格取得等に関しても補助を出し環境の整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列事業所と合同での行事や勉強会を行い交流を図るとともに、外部研修にて他事業所との交流も行いながらサービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みの際から入居までの期間、入居に関する本人の不安や希望等を聞き、入居後反映できるように把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問時には、管理者と施設看護師が同行し、施設入所への家族の不安や、入所後の本人の病状管理など不安や疑問の払拭、要望の把握に努めている。		



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の有料老人ホームを含め、本人の状態、家族の希望を加味し必要であれば他サービスを検討、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭きや洗濯干しなどの軽作業や本人に合わせた作業と一緒にしてもらうなどの取り組みを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況を定期的に報告し、遠方の方には手紙や電話にて報告を行っている。又、必要なものは出来るだけ家族に準備して頂き、面会を兼ねて持ってきてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や理髪店等、在宅時の周囲とのかかわりを切らない様に支援を行っている。	馴染みの店や美容院に職員が付き添って利用している。時には、自宅隣のお茶飲み友達に会うため、職員がそこへ送って行き、後で迎えに行くこともあった。コロナ禍の家族の面会は、事前に電話で問い合わせをいただいた上で、利用者はPHS携帯を持ち、玄関のガラス越しに、家族がインターホンを使い会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やレク活動を通じて、個々の関係性を見ながら互いに関わりを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の受け入れ先の相談や今後の手続きなど、退去後も家族と相談や話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい環境づくりや、日常生活の中での会話などから本人の意向をくみ取り、意向に沿えるよう支援を行っている。	意思表示できる利用者は、11人中8人と多く、話しやすい環境づくりを心掛けている。自宅では、食後の日課として散歩をしていたという利用者の意向を確認してからは、昼食後に散歩に出れるようにしている方も居る。意思表示が難しい方に対しては、表情の変化を観察しながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等から入所前の情報を聞き取りを行い意向に沿えるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化に応じて一日の生活を工夫し、本人が安心して生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況変化など職員間で情報を共有し、課題や支援方法などを反映させている。家族の意向等は電話や手紙にて意向を聞き取り計画に取り入れている。	介護計画は、予め介護支援専門員がたたき台を作成し、訪問薬剤管理指導報告書や看護師からの情報を得て原案を作成している。食事を一人で食べられるようになりたいなど、個別の課題を盛り込んでいる。家族の意向は、面会時や電話で確認している。モニタリング、評価は3か月毎に、計画の見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や対応など個々の経過表を用いて記録し、職員間で共有している。そこでの課題などは介護計画へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の有料老人ホームと連携しており、互いに入居者や職員が行き来している。又、合同でのイベントやレク等も行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方々の支援を受けながら生活できるよう努めている。また、協力医による予防接種も実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医がある場合は、入居後も継続して受診できるようにしている。通院時は施設看護師が通院に付き添い、様子などを医師に報告している。	本人のかかりつけ医がある場合には、入居後も継続して受診出来るようにしている。家族付き添いの有無にかかわらず、事業所の看護職員が受診に同行し、利用者の普段の様子を医師に伝えている。受診の付き添いが出来ない家族には、後日、受診状況を看護職員から報告している。眼科と皮膚科の受診も同様の対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の体調や様子など、施設常駐の看護師に報告し、医師への相談や通院につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際、管理者、施設看護師が入院先と情報交換を行い連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時を含め必要となった際に都度看取りの指針や施設での対応など家族へ説明している。又、主治医とも連携し必要であれば訪問診療などの検討も視野に連携を行っている。	看取りの指針を整備し、事業所の対応力を含め入居時に家族説明している。入居後、状態が変化し重度化してきた場合には、その都度看取り指針や施設での対応を家族へ説明している。主治医とも連携し対応するなか、状況によっては、24時間訪問診療ができるクリニックに切り替え支援している。研修会を行い、職員の理解度を高め、自信に繋がるように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法に関しては、併設の有料老人ホーム職員と合同で定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法や定期的に避難訓練を行っている。また、町内の一次避難場所となっており、地域の避難訓練にも参加している。	年2回総合訓練を行い、火災の避難訓練は、夜間想定とし夕方暗くなってから行っている。水害と土砂災害の避難訓練は、階下の有料老人ホーム利用者が3階に避難する訓練と併せ、9月には、町内会の避難訓練で建物を開放し、一時避難所として炊き出し訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心を傷つけないよう言葉遣いなどに留意している。研修項目にも接遇などの項目を全職員に組み込んでいる。	難聴の方には、大声は怒っているように聞こえてしまうので、筆談とし、利用者への言葉遣いにも留意している。職員が慣れから「ちゃん付け」で呼んだり、友達感覚の言葉遣いが見受けられた場合には、職員同士で注意し合い、管理者も見聞きすれば注意している。年2回、礼節や接遇の研修を開催している。	利用者と会話する時間を作り、話をしっかり聴く取り組みを行っており、そこでは、職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならないように留意する必要があります。日常的な支援のなかで、常に具体的に話し合い、改善に向けた継続的な取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員が話しやすい関係づくり、話しやすい環境づくりに努め日常の自己決定についても出来るだけ行ってもらよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見ながらレク活動や体操への促し、趣味活動など本人のペースや意向を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の愛用品の購入、同行での買い物などの支援を行っている。		



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は1F厨房にて調理員が行っている。イベントでの行事食や季節に応じたメニューの提供を行っている。厨房職員が希望食を聞き取りし可能であれば献立の変更等も行っている。	調理は1階の厨房で行い、3階のグループホームへ配膳している。利用者は、食後にテーブル拭きやコップ洗い、茶碗拭きを職員と一緒にやっている。行事食や季節に応じたメニューの提供を行っているほか、2カ月に1回の割合でおやつ作りを楽しんでいる。ホットケーキやどら焼き、夏にはかき氷など、出来上がったものは皆で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の声掛けや支援を行い、本人の好みのものが摂れるよう支援している。 食事量の増減によりおやつなどの調整も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時や毎食後に本人に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄表を設定し、排泄パターンを見ながらできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄の支援は、専用の表を使って排泄のリズムを把握し個々の利用者に対応している。入居後、排泄パターンを把握するまでが大変だが、様子を見ているとトイレに行きたくてソワソワしている方もおり、排泄表と繋がる方も居る。オムツ利用者が、ポータブルトイレの利用で安定した排便につながった改善事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便チェックを行うとともに、下剤にて排便コントロールを行う方については、下剤の量を看護師が調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の目安となる曜日設定は行っているが、本人の体調や気分などにより日にちの変更や時間帯の変更を行っている。希望時は併設の有料老人ホームの大浴場や個浴を使用し自分のスタイルで入浴を行っている。	日曜日を除き週2回の入浴としており、9時から16時の間であれば、何時でも入浴は可能である。入浴の目安としての曜日や時間を決めているが、本人の体調や気分に変更している。お風呂は、階下の有料老人ホームの大浴槽や個浴、機械浴も利用しており、大浴槽ではヒノキ、桜又はよもぎの入浴剤を利用している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し、夜間は休息するといった1日のメリハリを意識し、夜間は安心して休めるよう環境に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養薬剤管理指導を薬局と契約し行っている。看護師や管理者が入居者の状態を報告し、薬剤師による薬の調整、職員への指導もお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時の生活や趣味等を継続しながら生活できるよう周囲へ相談しながら個々の活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人より希望があった際は、できる限りの外出支援に努めている。又、定期的にレク活動での外出や地区内の散歩も行っている。	コロナ禍ではあるが、本人の希望があった際は、出来る限りの外出支援に努めている。天気の良い日は、近所の散歩に出掛けており、職員がマンツーマンで対応している。散歩の途中、近所の方と声掛けする機会が多くなっている。季節に応じ、春には近くの桜の花見、秋には紅葉狩りを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内の金庫で個々の金銭は管理している。本人の希望時や買い物など必要に応じて渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に都度支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方と一緒に季節に沿った装飾の作成や展示を行っている。又、共用スペースにはできる限り不要なものは置かずに空間づくりを行っている。	2ユニットのホールは、繋がって一体的なコミュニティスペースとなっている。利用者は、日中の殆どをここで過ごし、暮らしの場となっている。また、自分なりの活動をしやすくなるようにと、一人になれる場所も作っている。利用者は、季節を感じるツリーやリースを職員と作っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニットの入居者同士が自由に行き来できる場や併設の有料老人ホームの入居者が自由に行き来できる空間、個々でゆったり過ごせるようソファを配置した空間など好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	配置等に制限はなく、自宅で使用していた物などを持ち込んでもらっている。	居室には、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられ、5室にはトイレも設置されている。空調設備として、暖房用のパネルヒーターと24時間換気を設置している。入居時には、不安を少なくするため、各々に、テレビや冷蔵庫などのほかに、家族や孫の写真、位牌など馴染みの物を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に洗面台と鏡が設置してあり、整容などを行えるようになっている。又、洗面台の高さも車いすのまま利用できる高さとなっている。		